

☆7月のなかよし一む・ミニ・ミックスでは・・・☆

7月は、水遊びを予定していましたが、お天気が悪く室内での活動に変更になりました。粘土遊びや新聞遊びを楽しみましたよ(*^▽^*)来月は晴れるといいな～



☆シニアサロンぽぽらでは・・・☆

保育園の4.5歳児の子ども達が、お遊戯の発表をしてくれました。シニアサロンの皆様の特技を見せてもらったり教えてもらったりして、楽しく過ごしました。最後は、佐賀(唐津)の民話の紙芝居を見ました。



「シニアサロンぽぽら」に遊びにきませんか？

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。

今月は、バスハイクです。

日時 8月28日(木) 9時から12時30分

内容:「ヤクルト」工場見学

集合場所:三光保育園玄関

(8時55分までに、集合して下さい)

※電話でお申し込み下さい。

TEL 31-6877



♪育児相談・食育相談をしています♪



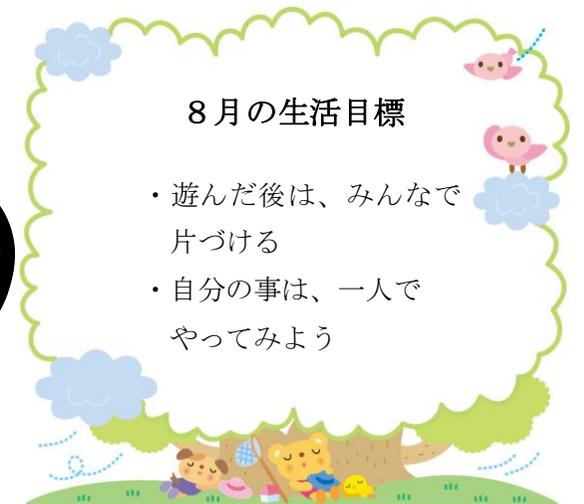
三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。

お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。(31-6877)



永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
2014年8月発行 第87号
認定こども園 西九州大学附属三光保育園
TEL:0952-31-6877



8月の生活目標

- ・遊んだ後は、みんなで片づける
- ・自分の事は、一人でやってみよう

猛暑お見舞い申し上げます(˘˘˘)

梅雨明けと共にやって来た猛暑の夏。朝からむ～んとする空気に気が重くなる今日この頃です。園の子ども達は、プールでの水遊びや虫捕りを存分に楽しんでます。今朝は玄関先で接客している私のそばに飛んできたトンボを追いかけてきて、「捕まえて～!」。無事保護に成功して渡すと、「このトンボの名前はなんだろうね?しらべよう～」と、ぞろぞろと部屋の方に向かっていきました。のんびりと時間が流れる今だからこそ、異年齢同士で刺激を受け合う時間がとれているのだと感じました。

暑さはまだまだ続きますが、トンボの種類や、野山・園庭に咲く草花の種類も変わってきます。自然に親しみながら、その変化に気づくことができるといいなあ～と思います。親子で近場にある自然に探検に出かけてみませんか?水筒はくれぐれもお忘れなく!

「なかよしミックス」に遊びにきませんか!

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。

★第5回目の8月は、

日時: 8月26日(火)10:00～12:00
8月28日(木)10:00～12:00

内容: わらべうた遊びを楽しむ
持ってくるもの: コップ(子ども用)

場所: さんこう・ぽぽら



※駐車場は三光保育園からお入り下さい。事前のお申し込みが必要です。

※1日(金)9:30より受付(平日9:30～17:00まで)いずれの日も先着16組の親子

「フリーデー」にもどうぞ!

日時: 8月19日(火)・8月20日(水) 10:00～12:00・13:00～16:00
お好きな時間にお出かけ下さい。

場所: さんこう・ぽぽら

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

子育て便り

「片付け」は「自立」への第一歩

西九州大学短期大学部 幼児保育学科 准教授 西田明史

子どもがお気に入りのオモチャを引っ張り出して夢中になって遊んでいます。子どもの周りは、いつに間にか使ったオモチャでいっぱいです。お昼寝の時間が近づいてきたので、片付けを促す言葉をかけました。ところが、子どもはなかなか片付けません。ついに、「(少し怒った感じで)片付けなさい!」「片付けないと捨てるよ!」「片付けができたからお菓子あげるよ」などの言葉が飛び出しました。その後、子どもは片付けを済ませ、お昼寝をしました。

さて、一件落着のようです。しかし、子どもが再び遊ぶ機会を得た後に、先ほどと同じような悶着が起こりそうです。子どもは、〈怒られる〉〈大切なオモチャを捨てられる〉ことが嫌だから緊急避難的に片付けた、〈お菓子をもらう〉褒美が目的で片付けたのかもしれませんが。これでは、「片付け」ができるようになった、とは言えません。

「片付け」は、「散らばっているものを整った状態にする」ことですが、なぜ「整った状態」にするのでしょうか。子どもの生活場面で見られる「片付け」とは、〈遊び〉と〈遊び〉、〈遊び〉と〈生活〉の区切りをつける行為です。区切りとは、遊びの「内容」「時間」「場所」が次の活動へ移行することを表します。「片付け」と対に用いられる「準備」が〈これからの活動〉への見通しだとすれば、「片付け」は、〈今〉〈ここにある〉活動の〈次回の機会〉への見通し、または〈直後の活動〉への見通しだと考えられます。このように、ひとりで上手に片付けできる力は、生活を見通しながら生活に必要な身の回りのことを自分でできる(=自立)力の基盤だと言えます。

子どもの片付けの援助には、片付けが〈できた〉ことを褒める(認める)働きかけも大切です。加えて、片付けの行為自体に対する達成感や満足感を得られるような環境づくりも必要です。例えば、三光幼稚園・保育園でも取り組まれているモンテッソーリ教育では、教具を置く場所が一つひとつ定められています。また、収集家は、膨大な収集・所蔵物の一つひとつを整然と陳列しています。すなわち、オモチャを置く場所を定め、その場所が一目瞭然に分かるような環境が、片付けに対する充実感に結びつくのではないのでしょうか。整った状態を目で確認できる環境があるからこそ、子どもが〈これから〉や〈今度〉の活動に対して見通しを立てやすくなると考えられます。

我が家にも5歳と2歳の子どもがいます。二人とも片付けが完璧にできるわけではありませんが、好きなオモチャやよく使うオモチャであれば何とか片付けられているようです。我が家の子どもたちが自分たちで場を整え、遊びに熱中できるように、子どもたちのできることや関心を見極めながら、子どもとじっくり関わっていきたいと思います。

食育便り



「おいしさ」のわかる子どもに

西九州大学 健康福祉学部 健康栄養学科 講師 梅木陽子

先日、「ミシュランガイド福岡・佐賀 2014」が発売されるとテレビ等で話題になっていましたが、「美味しいものが食べたい!」という気持ちになられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか?それでは、私たちはどうして「美味しい」と感じるのでしょうか?今回は、乳幼児期に獲得する生きる力のひとつである「味がわかる力」について取り上げます。

味はいつからわかる?

人は乳児のころから、4つの基本味「甘味、塩味、酸味、苦味」と「うま味」がわかるとされています。ミルクの味は薄い甘味、うま味、塩味で、この味に親しんで正常な味覚が育っていくそうです。一方、酸味や苦味は本能的に嫌悪感がありますが、与えられる食べ物から安心して食べられる酸っぱいもの、苦いものを覚えていきます。

好き嫌い、食嗜好はどうやって形成される?

味を感じる力は生まれたときから備わっているのに、なぜ好き嫌い、嗜好は人によって違うのでしょうか。嗜好には、①生理的なおいしさ、②食文化によるおいしさ、③情報によるおいしさ、④やみつきになるおいしさが関連しているといわれています。生理的なおいしさとやみつきになる美味しさについては、動物と共通する本能で感じるおいしさとも言えますが、食文化や情報による美味しさは、人間特有のもので、つまり、子どもにとっては、周りの大人の用意する食環境(食文化伝承や情報)によって嗜好が形成されると言ってもよいかもしれません。また、子どもの食嗜好は10歳くらいまでに形成されるとも言われていますので、幼児期の関わりを大切にしたいものです。

生理的なおいしさ

生きるために必要な食べ物
⇒のどが渇いたときの水
お腹がすいているときの甘いもの



食文化によるおいしさ

昔から引き継がれ、慣れ親しんだ食べ物
⇒だし 地域の食材 郷土料理
家庭の味



情報によるおいしさ

美味しいことを教えられた食べ物
⇒行列のできる店 「とれたて」の表示
安全な食べ物(苦いが栄養のあるピーマン)

やみつきになるおいしさ

本能的に快感があり、やめられない食べ物
⇒油 お菓子



子どものときから慣れ親しみたい「だし」

「だし」の美味しさは、海外の方にはなかなか理解し難い味のようなようです。「だし」は私たち日本人が慣れ親しんできたことで「美味しさ」を感じるもののひとつです。「だし(かつお)」には、疲労回復効果や抗酸化性などの健康機能もあり、なにより「和食」の味の基本となるものです。「だし」の美味しさは、健康づくり、食文化の面からも、子どもへ伝えていきたい「美味しさ」です。

(参考文献:味覚と嗜好のサイエンス 伏木亨 著)